ハンドマイク例文　　７・１７

ご近所の皆さん、こんにちは日本共産党です。この場所から訴えさせていただきます。

みなさん、安倍内閣は７月１日、海外での武力行使ができるように憲法解釈を変える閣議決定を強行しました。

日本の国がどこからも攻撃されていないのに、日本国民に危険が及ぶと判断されれば他国の戦闘地域に自衛隊を派兵して一緒に戦争に参加させるというのです。集団的自衛権というのは、日本の国を守ることでも、国民の命を守ることでもありません。アメリカの戦争で日本の若者の血を流す。これが正体です。

閣議決定の７月１日、自衛隊が創設されて６０年になりましたが、この６０年間、自衛隊は他国の人をただの１人も殺していないし、ただの１人も戦死者を出していません。これは歴代の自民党政権が立派だったからではなく、憲法９条が自衛隊員の命をも守ってきたのです。

「明白な危険」を判断するのは時の政府であり、何を根拠に判断したのかは「特定秘密」ということになるでしょう。これはいつか来た道、戦前の日本の姿ではないでしょうか。一旦ここに踏み込んでしまうと、海外での武力行使は歯止めなく広がることになってしまいます。アフガン戦争では後方支援で派兵されたＮＡＴO諸国の若者も１千人が命を落としています。このような国のあり方の大転換を、与党だけの密室協議、一内閣の閣議決定で強行するなど、立憲主義の否定です。まさに憲法破壊のクーデターというべき暴挙であり絶対に許すことはできません。

しかし、どの世論調査でも５割から６割は反対です。自治体議会の「反対」「慎重に」の意見書決議も２００近い自治体で決議され、自民党や公明党の議員が賛成したところも広がっています。加藤紘一さんをはじめこれまでの保守政治を中核で支えてこられた歴代の自民党幹事長や公明党の元運輸大臣で二見元副委員長なども「戦後の政治と国のあり方をひっくり返す安倍内閣のやり方は許してはならない」と日本共産党の「しんぶん赤旗」に登場して断固反対の声をあげておられます。

今まさに、戦争か平和かの歴史的な分かれ道。安倍首相や大臣が戦場に行くわけではないのです。若いみなさん、あなたは戦場に行きますか？若い女性の皆さん、恋人を戦争に行かせたいですか？あなたの子どもさんやお孫さん、日本の若者に銃を担がせて「征って来い」と戦争にいかせますか？若者を決して戦場に送ってはなりません。日本共産党は党をつくって９２年、命がけで侵略戦争に反対してきた党として心から呼びかけます。安倍政権の戦争する国づくりを絶対に許さないために、いまこそご一緒に声をあげ、力をあわせようではございませんか。また安倍政権は、大企業への減税をばらまきながら、消費税の大増税や年金切り下げで国民の暮らしと日本経済を傷めつけています。原発事故がなかったかのように原発再稼働に走っています。また、沖縄県民の総意を踏みつけにして辺野古の新基地建設へ突っ走っています。このように戦後最悪の反動政治を推し進める安倍内閣は１日続けばそれだけ国民に災いが募ります。亡国の政治へ突っ走る安倍政権を国民みんなの世論と運動で打ち倒そうではございませんか。日本共産党とご一緒に、国民が主人公の新しい日本の政治を切り開きましょう。また、この機会に「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。日刊の「しんぶん赤旗」は１カ月３４９７円、日曜版は愛媛民報とあわせて１カ月１１７３円です。ご静聴ありがとうございました。